

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	言語コミュニケーション文化研究科
大項目	5 学生の受け入れ (研究科)
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2010.5.1~2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度~2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA~Dの4段階とし自ら評価した。A~D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 国際化への対応を促進するため、正規外国人留学生の拡大を2割に高める。	→外国人留学生数。	B	A			
2. 社会人学生の比率を3割に高める。	→在職英語教員の履修者数。海外において教育経験のある日本語教員の履修者数。	B	B			
3. 入学定員を安定的に確保するため、入試制度の改革を行う。	→定員の充足率。後期課程の秋学期入試制度、関学生対象の推薦入試制度、留学生対象の研究生制度の実施。	B	A			
			☆			
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

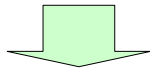
《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目5.0.1	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
	(方針の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 方針を設定している <input type="radio"/> 方針は設定していない (明示の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 明示している <input type="radio"/> 明示していない
小項目5.0.2	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
	(説明) 学生の募集は、①学内も学外も年に3回入試説明会、②学内推薦、海外協定研究科の推薦、③パンフレットの配布、新聞広告の掲載、HPでの広報、院生やOBへの広報など、の方法で行っている。入学者の選抜は、①研究計画書と課題論文、ペーパー試験、口述試験(すべて合格しなければ入学できない)、②学内推薦や協定研究科の推薦なら、成績書や教員の推薦書など厳正な書類審査などで選抜を行っている。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目5.0.1	学生の受け入れ方針を徹底すると同時に、海外の名門大学（南京大学、北京第二外国語大学）の研究科と提携し、前期課程のダブルディグリー制度（毎年各3名）を導入した。ダブルディグリーとして入学される留学生は、成績がトップ3の学生なので、これにより、国際色がより鮮明になっただけでなく、非常に優秀な留学生も確保できたのである。学生の受け入れ方針を徹底しているため、全体的に、前年度に劣らないより質の高い入学者が確保できている。
★小項目5.0.2	学内推薦入学や一般入試を進めている他、2011年度から前期課程のダブルディグリー制度を導入した。教員の研究分野や研究キーワードの記述などをよりわかりやすくするために、HPやパンフの広報に力を入れた。これにより、入学希望者にとって、より専門を選択しやすくなったかと思う。選抜の透明性や公正性を確保するため、ペーパー試験の他、口述試験の強化を図った。前年度に比べて入学者数が218%増になったが、非常に優秀な入学者が確保できた。
小項目5.0.3	これまでずっと定員割れだった前期課程の入学者数は、9年ぶりに入学定員を満たした。収容定員の充足率は1.14。本学の大学院の中でトップレベル。
小項目5.0.4	学生募集の方法や入試成績の反省から得たものは次年度の仕事に活かされている。
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

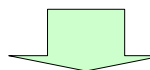
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目5.0.1	本研究科の学生受け入れ方針をより浸透させ、わかりやすく理解していただくため、研究領域のカテゴリーを更に細分化し、広報の一環としての入試説明会の内容を更に充実させ、強化する。
小項目5.0.2	学内推薦入学や海外協定校とのダブルディグリー制度を強化し、前期課程の9月入学や研究生制度の導入を引き続き検討する。
★小項目5.0.3	在籍学生数の充足率を踏まえた上で、前期課程の学生を30名確保できるように更に努力する。
小項目5.0.4	検証の時期を固定し、検証の結果を本研究科教員に周知させる。
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	博士課程後期課程の収容定員
小項目5.0.4	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
★小項目5.0.3	現在博士課程後期課程の在学者数は、予定されている収容定員（9名）を遙かに超過している。ただし、後期課程の院生は、何れも優秀な学生ばかりで、研究科の運営には支障をもたらしていないこともあり、更に絞るのは現実的ではない。収容定員数を修正するかどうかについて検討をし、よりよい改善策を見出したい。
小項目5.0.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

- ダブルディグリー制度により優秀な留学生を入学させることができた、とある点は評価されます。
- 後期課程の学生数が収容定員を大幅に上回っており、指摘されている通り、適切な運営、学生指導が求められます。

【学内委員】

- 後期課程の在籍学生数は過去数年、収容定員を大幅に超過していましたが、2011年度は1名の超過にとどまりました。収容定員数を修正するかどうかも含め、適正な受け入れに向けた努力が引き続き望まれます。
- 前期課程についてダブルディグリー制度を導入するとともに、教員の研究領域等をより分かり易くするため、HPやパンフなどの広報に力を入れるなどの努力により、2011年度は9年ぶりに入学定員を満たすことができました。
- 目標に対し順調に経過していると思われます。
- 前期課程は定員未充足、後期課程は定員超過の状態です。特に後期課程においては大幅な超過状況です。その点、どのように考えるのか検討が待たれます。
- 昨年度の記述を吟味され、より丁寧に記述されています。
- 受け入れ方針は明確であり、学内外に明示しています。ただ、ホームページでの明示について触れられていません。
- 学生募集、入学者選抜を適切に実施されています。
- 入試や入学式が終わった後の定期的な検証は、入試実行小委員会でしょうか。具体的な検証の委員会名の明示をお願いします。
- 昨年度、改善すべき事項で示された、受け入れ方針などの言語表現、研究生制度、前期課程の9月入学の導入、年2回の検証の実施、についてはどのような状況でしょうか。これらを確認することでPDCAサイクルが機能していることが確認できます。
- 志願者も増加しましたが、一過性のものにならないような努力に期待します。
- 入学定員に対する入学者数比率ならびに収容定員に対する在籍学生数比率は、管理が難しいとは思いますが、出来れば0.9、最低でも0.8を下回らないように、また、出来れば1.25以上、最低でも1.30以上にならないよう努力してください。
- 目標に正規外国人留学生の拡大、社会人学生の比率が掲げられています。これらの現状の数値を示しておく必要があります。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目5.0.1

基盤評価：「理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること」「公的な刊行物、ホームページ等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること」

○小項目5.0.2

基盤評価：「学生募集、入学者選抜の方法が、受験生に対して公正な機会を保証し、かつ大学教育を受けるための能力・適性等を適切に判定するものであること」

○小項目5.0.3

基盤評価：「【学士】学部における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.00である（※）」
(略)

「【学士】学部における収容定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」
(略)

「【学士】学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」
(略)

「【修士・博士・専門職学位課程】部局化された大学院研究科や独立大学院などにおいて、在籍学生数比率が1.00である」

○小項目5.0.4

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、学生の受け入れの適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

○小項目5.0.1～5.0.3

達成度評価：「学生募集、選抜の実施状況等は、公正・適切なものである。（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。）

- ・学生の受け入れ方針と、学生募集、選抜の方法等の整合性
- ・学生の受け入れを適切に行うための必要な体制の整備

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

「後期課程の在籍学生数は過去数年、収容定員を大幅に超過していましたが、2011年度は1名の超過にとどまりました。収容定員数を修正するかどうかも含め、適正な受け入れに向けた努力が引き続き望まれます。」というご指摘があったが、現在、研究科委員会で入学定員3名を5名に増やし、収容定員を15名とすることによって、定員を適正化する方向で検討中である。

「入試や入学式が終わった後の定期的な検証は、入試実行小委員会でしょうか。具体的な検証の委員会名の明示をお願いします。」というご指摘があったが、定期的な検証は、入試実行小委員会と教務学生委員が中心に検証することになっている。その結果は、研究科委員会にて公表する。

「目標に正規外国人留学生の拡大、社会人学生の比率が掲げられています。これらの現状の数値を示しておく必要があります。」というご指摘があったが、本年度の留学生は24名であり、全体の30%となっている。また、社会人学生の数は23人であり、全体の29%となっている。